

パネル3: (開発/支援ツール/環境)

EPM:お手軽にリアルタイムの生データ
— 開発者の立場から—

SRA先端技術研究所(EASEプロジェクト)
阪井 誠

謝辞

- 本研究の一部は、文部科学省「e-Society 基盤ソフトウェアの総合開発」の委託に基づいて行われた。

2

従来のプロジェクトの制御

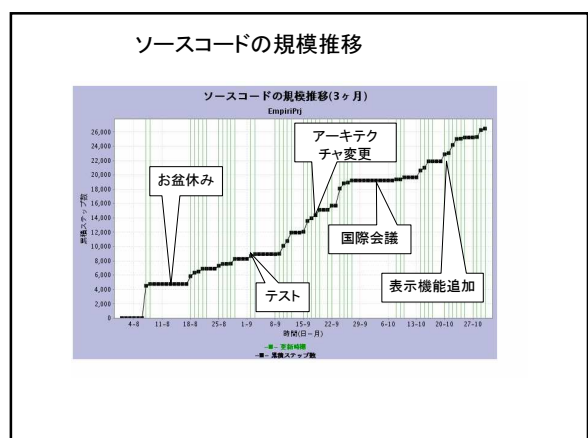
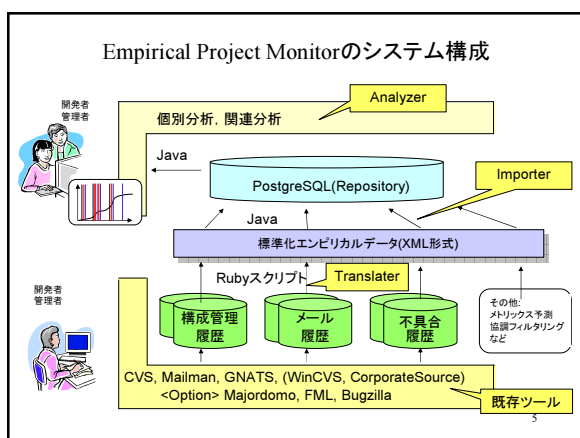
- 一般にプロダクト(ドキュメント)を利用してプロジェクトは制御されてきた

=>手戻りの低減には詳細な情報が必要だが、負荷の増加、情報の遅延、人為的なデータ操作、の問題がある

Empirical Project Monitor
—お手軽にリアルタイムの生データ—

- メジャーなフリー開発ツールを利用し、データ収集の負荷がない
 - 構成管理ツール(CVS)
 - メーリングリスト(Mailman)
 - 障害管理(GNATS)
 - (オプション: Majordomo, FML, Bugzilla)
- (最終成果物作成以前に)リアルタイムに開発者の振る舞いを知ることができる
- 人為的操作の少ないデータを分析

4



Why(開発者の立場から)

- 適応性: 特別な作業付加やコストを必要としないデータ収集
 - 仕事の邪魔はするな!
- リアルタイム性: 任意のタイミングでの参照
 - 開発中にも支援して欲しい
- 透明性: 個人の経験に依存しない定量的な分析
 - 公平にリソース配分・支援をして欲しい

7

Where-to

3Kによらない開発をめざす

- 顔をうかがう
- 口先でごまかす
- (上下)関係

(質は異なるもののKKDはそれなりに必要?)

8